

# 最近のFD関係資料の中から

大学開放実践センター・教授（職業能力開発）

森 和夫

教員が日々の授業を確かなものにして、学生にとっての充実した時間とすることは極めて優先度の高い業務である。研究業務と並存させる

ところに大学教員の教員たる由縁、アイデンティティがある。当然ながら良い授業には、それなりに準備が必要だ。自らの授業をどのように高めて行けばいいだろうか。意外なことだが、大学教官のFD活動、教授活動の参考になる文献は必ずしも多くはない。そこで、最近の資料からモデルとなる二つの資料を紹介することにした。両大学における実践は徳島大学での活動に際して重要な示唆を与える。

## 1 「北海道大学FDマニュアル」

「北海道大学FDマニュアル」  
安部和厚・西森敏之・小笠原正明・細川敏幸・大滝純司、北海道大学高等教育機能開発総合センター（高等教育ジャーナル第7号）、2000

年3月 このマニュアルは教員のFD活動のうち、「北海道大学教育ワークショップ」に関するものである。1泊2日で40名前後の教員で行われる。

ミニレクチャー、グループ作業、全体発表・討論を繰り返して具体的なプロダクトを出すのである。この他には「TA研修会」「新任教官研修会」などがある。このワークショップでは教育目標の設定から評価までのプロセスを学習することになる。ワークショップでは目標を表現することに重点が置かれている。「目標の表現できない科目は存在できない」と書いてあるが、この考え方は筆者の経験に照らしても当然のことである。マニュアルはこのワークショップを進める際のテキスト的な役割を持っている。ここに示した目次によっておおよその内容がわかる。何よりも大学教員として共通の教育観を持つこと、大学が時代に対応する

捉え方を考え合うこと、そして、大学あるいは学部の目標達成の推進に有益な成果をもたらすものと期待できよう。

## 2 「成長するティップス先生 名古屋大学版ティップス」

ホームページ <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/index.html>

「成長するティップス先生 授業デザインのための秘訣集」池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹、玉川大学出版部（高等教育シリーズ104）、2001年4月15日初版、1400円（税別）

名古屋大学の取り組みは、日々実践する教授活動を日常的に支援しようとする姿勢の表れと言える。内容はホームページにあるのでアクセスしていただきたい。本学教員にも参考になる。講義を計画するところから始まり、評価して終わるまでのプロセスを追って、テーマ設定している。さまざまな問題を解決しながら、優れた指導者へと変身していくのである。

具体的には「授業日誌」というスタイルで時系列に掲示している。

「試行錯誤の毎日」という中にはレポートを課したはいいいけれど、がーん、ぜんぜん君たちわかってなかったのねの巻、小テストをやってみましたが…の巻、印刷室で今日も泣くの巻、質問たくさんつれいなの巻、自分のザル頭にあきれるの巻、ティップス先生キレル！の巻、すぐに反省の巻、同僚の講義を見て眼からうるこの巻」というように書かれている。

この内容はまた、全学の教員が書き込むこともできる。このようにして名古屋大学を挙げてのノウハウ集が日々更新されている。「成長する…」はこの意味から付けられたのである。この他に「授業の基本」と言うテーマで指導のポイントを整理しているのも使いやすい。

### 授業の基本

- 1：コースをデザインする
- 2：授業が始まるまでに
- 3：第一回目の授業
- 4：日々の授業をデザインする
- 5：魅力ある授業を演出する
- 6：学生を授業に巻き込む
- 7：授業時間外の学習を促す
- 8：成績を評価する
- 9：自己診断から授業改善へ